No.

アルゼンティン共和国
ラ・プラタ大学獣医学部研究計画
計画打ち合わせ調査団報告書

平成２年１月

JICA
701
87.9
ADL
LIBRARY

国際協力事業団

展開番
JR
89 76

JICA LIBRARY
1101939[5]

24486

アルゼンティン共和国
ラ・プラタ大学獣医学部研究計画
計画打ち合わせ調査団報告書

平成２年１月

国際協力事業団

国際協力事業団
24486

序　　文

アルゼンティン共和国政府は、同国の基幹産業である牧畜業発展の基礎となる家畜衛生分野について、ラ・プラタ大学獣医学部を拠点とした獣医学研究の強化を図るため、昭和６２年７月我国に対しプロジェクト方式技術協力を要請した。これを受けて国際協力事業団は、昭和６３年４月に事前調査団を、また、同年８月に長期調査員を派遣し、要請内容及びプロジェクト方式技術協力の実施に必要な事項について調査を行なった後、同年１２月に実施協議調査団を派遣してアルゼンチンティン側関係者と協議を行ない、１２月１５日「討議議事録」（Ｒ／Ｄ）及び「暫定実施計画」（ＴＳＩ）が署名され、平成元年３月１日から５年間の協力が開始された。

国際協力事業団は、今般、暫定実施計画に基づくプロジェクトの進捗状況と問題点を把握するとともに、平成２年度のプロジェクト実行計画案を策定することを目的として、平成元年１２月４日から１６日まで、東京大学農学部獣医学科見上彪教授を団長とする計画打ち合わせ調査団を派遣した。

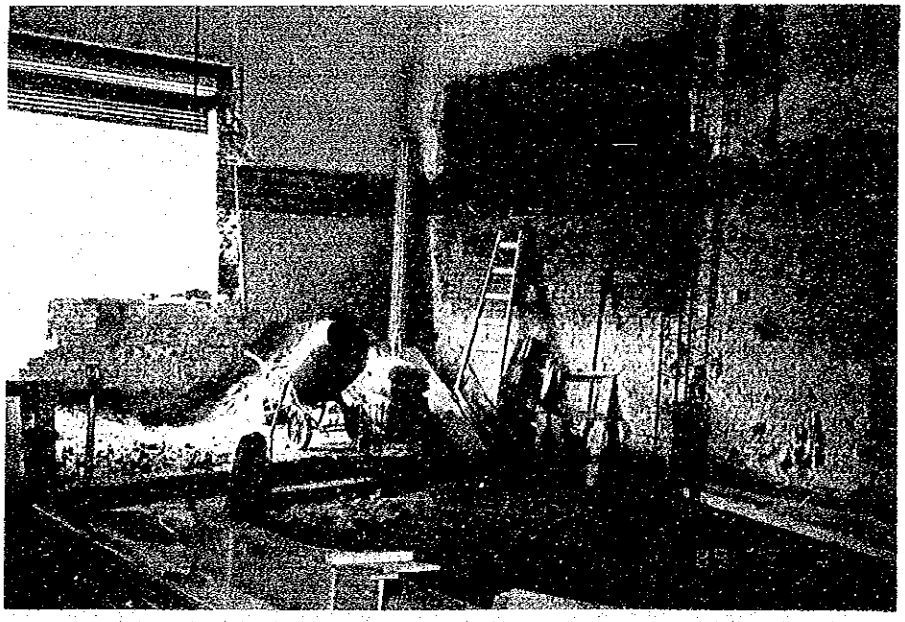
本報告書は、同調査団の調査結果をとりまとめたものであり、今後広くプロジェクト関係者に活用されることを願うものである。

最後に、調査団各位ならびに調査の実施にあたりご協力頂いた関係各位に対し、厚く御礼申し上げる。

平成２年１月

国際協力事業団
農業開発協力部長
宮　本　和　美

１９８９年１２月１１日に開催された第１回合同委員会



ＪＩＣＡの応急対策事業により改修中の電子顕微鏡室

ブラジル
ペルー
ボリヴィア
チリ
アルゼンチン
パラグアイ
ブエノスアイレス
ラプラタ
ウルグアイ

目　　次

序　文
写　真
地　図

1. 計画打ち合わせ調査団の派遣 …… 1
1－1　調査団派遣の経緯と目的 …… 1
1－2　調査団の構成 …… 1
1－3　日　　程 …… 1
1－4　主要面談者 …… 3

2. 暫定実施計画に基づくプロジェクトの進捗状況と問題点 …… 5
2－1　協力部門別活動 …… 5
2－2　専門家派遣 …… 6
2－3　研修員受け入れ …… 7
2－4　資機材供与 …… 7
2－5　カウンターパート及び要員の配置 …… 8
2－6　ローカルコスト負担 …… 8
2－7　建物及び施設 …… 9

3. 平成2年度の実行計画案 …… 21

4. プロジェクトの進捗状況に関する調査団所見 …… 23

5. 合同委員会の討議計果 …… 25

1. 計画打ち合わせ調査団の派遣

1. 計画打ち合わせ調査団の派遣

1－1 調査団派遣の経緯と目的

アルゼンティン共和国政府は、同国の基幹産業である牧畜業発展の基礎となる家畜衛生分野について、ラ・プラタ大学獣医学部を拠点とした獣医学研究の強化を図るために、昭和６２年７月我国に対しプロジェクト方式技術協力を要請した。これを受けてＪＩＣＡは、昭和６３年４月に事前調査団を、また、同年８月に長期調査員を派遣し、要請内容及びプロジェクト方式技術協力の実施に必要な事項について調査を行なった後、同年１２月に実施協議調査団を派遣してアルゼンティン側関係者と協議を行ない、１２月１５日「討議議事録」（Ｒ／Ｄ）及び「暫定実施計画」（ＴＳＩ）が署名され、平成元年３月１日から５年間の協力が開始された。

本プロジェクトは、「家畜における微生物（細菌、ウィルス、真菌、原虫）感染症の診断のための病理学的・免疫学的研究活動」を統一テーマとし、４つのサブテーマを設けている。さらに、それぞれのサブテーマに関する小テーマをラ・プラタ大学からのプロポーザルに基づき逐年的に決定する方式をとり、それらの研究活動に協力することで、ラ・プラタ大学獣医学部における研究活動の強化を図ることを目的としている。

一方、アルゼンティン国における最近の経済情勢の悪化は、プロジェクト運営に関するアルゼンティン側のローカルコスト負担にも影響を与えている。

こうした経緯から、今後下記の目的をもって計画打合せ調査団が派遣された。

① 暫定実施計画に基づくプロジェクトの進捗状況と問題点の把握

② 平成２年度プロジェクト実行計画の策定

1－2 調査団の構成

担当	氏名	所属
① 総括・獣医学研究	見上　彪	東京大学農学部獣医学科教授
② 研究計画	小川雅也	東京大学農学部事務長
③ 業務調整	小林一三	ＪＩＣＡ農業開発協力部農業開発課

1－3 日　程

派遣期間　：　平成元年１２月４日（月）　～　１２月１６日（土）

調査日程表

日順	月日	曜日	移動及び業務
1	12.4	月	RG－833にて成田発
2	5	火	SC－940にてブエノス・アイレス着 （午後）JICA事務所及び派遣専門家との打合せ （夜）JICA事務所長主催夕食会
3	6	水	（午前）表敬及び打合せ JICA事務所、日本大使館、ア国外務省国際協力局 （午後）ラ・プラタへ移動 ラ・プラタ大学獣医学部長表敬及び打合せ （夜）獣医学部長主催夕食会
4	7	木	（午前）第1回全体協議 （午後）獣医学部プロジェクト関係施設視察 本邦研修予定C／Pとの面接
5	8	金	（午前）協力部門別調査 （午後）第2回全体協議
6	9	土	派遣専門家との打合せ
7	10	日	資料整理及び団内打合せ
8	11	月	（午前）ラ・プラタ大学学長表敬及び打合せ 合同委員会開催 （昼）ラ・プラタ大学学長主催昼食会 （午後）JICA事務所及び派遣専門家との打合せ （夜）調査団団長主催夕食会、合同委員会議事録署名
9	12	火	（午前）補足調査 サンタ・カタリーナ附属牧場視察 （午後）ブエノス・アイレスへ移動
10	13	水	（午前）日本大使館に報告 （午後）RG－911にてブエノス・アイレス発 PA－440（リオ発）
11	14	木	移動日
12	15	金	NH－005（ロス発）
13	16	土	成田着

1－4　主要面談者

(1)　アルゼンティン側関係者

①　ラ・プラタ大学関係者

・Angel Luis Plastino	学　　長
・Jorge Pouchou	学長主席顧問
・Horacio Garcia Valenti	学長顧問
・Alberto Ricardo Dibbern	獣医学部長
・Mario Pons	副獣医学部長
・Rogelio Bruniard	獣医学部学術担当秘書
・Marcelo Pecoraro	プロジェクトコーディネータ
・Lucilia Venturini	以下プロジェクトカウンターパート
・Carlos Perfumo	
・Eduardo Gimeno	
・Cecilia Carbone	
・Maria Elisa Echeverrigaray	
・Fernando Dulout	

②　外 務 省

・Pedro Colombi	国際協力局官房課長

③　文 部 省

・Jose Luis de Imaz	文部省教育局大学課長

(2)　日本側関係者

①　在アルゼンティン共和国日本大使館

・伊　藤　昌　輝　　（公　　使）

・望　月　　毅　　（書 記 官）

・南　部　明　弘　　（書 記 官）

②　ＪＩＣＡアルゼンティン事務所

・上　村　昌　司　　（所　　長）

・青　木　正　志　　（業務第二課長）

・江　塚　利　幸

③　派遣専門家

・五十嵐　郁　男　　（リーダー代行）

・板　垣　慎　一

・野　口　優秀雄　　（業務調整員）

・鈴　木　直　義

2. 暫定実施計画に基づくプロジェクトの進捗状況と問題点

2. 暫定実施計画に基づくプロジェクトの進捗状況と問題点

2－1 協力部門別活動

平成元年３月に発足した本プロジェクトは、「家畜における微生物（細菌、ウィルス、真菌、原虫）感染症の診断のための病理学的・免疫学的研究活動」を統一テーマとし、初年度はサブテーマとして「形態学的研究活動」を採り上げ、４つの小テーマについて研究活動を行う計画である。現在各研究室（原虫、病理、ウィルス、細菌）において研究が開始されたが、いずれの部門においても、平成元年供与予定の研究用資機材がまだ到着しないため、研究に不可欠な消耗品（試薬類他）等は、専門家の携行機材または東京大学からの無償供与によって賄っている。カウンターパートの研究姿勢はいずれの分野においても熱心であり、全く問題がない。

なお、各部門における専門家とカウンターパートの協力による研究レポートは各年度末（今回は平成２年３月）に日本側に提出されることが、協議において確認された。

また、４年次に開始される予定のサブテーマ「応用領域へのアプローチを目指した総合的研究活動」を実施するための基礎情報・資料として、獣医学部は下記２点を調査し、平成２年３月末日までに日本側に報告することが協議において確認された。

① 経済的損失の観点から見た動物別・疾病の存在

② 野外実験及び病原体の持ち込みに係るアルゼンティン国の法定規制

以下、小テーマ別に現在の活動状況を述べる。

(1) トキソプラズマ症に関する研究

このテーマに関する研究は、従来ラプラタ大学獣医学部では全く経験がなく、五十嵐専門家の着任後初めて研究を開始し、カウンターパートに原虫の継代・保存方法を指導した。現在は、アルゼンティンの豚における本病の浸潤状況を、食肉検査場由来の豚血清を用いて調査している。今までに明らかになったことは、検査材料のうち約３０％が本原虫に対する抗体を有しており、食肉を通じて人間への感染が危惧されている。本研究室の実験器具類は必要最少限のものしかなく、今後さらに充実させる必要がある。また本病は人畜共通伝染病であり、その重要性をアルゼンティン国民に対する啓蒙活動を通じて強調し、本プロジェクトの存在と意義を認識してもらう必要がある。

(2) 感染症の病理・病理組織学的研究

ラ・プラタ大学獣医学部の病理に関する研究組織は「一般病理学研究室」、「病理解剖学研究室」、「鳥類病理学研究室」から成る。これら研究室の研究活動はプロジェクト開始以前から非常に活発であり、最も研究成果が期待される部門である。今回、林及び土井短期専門家ならびに板垣長期専門家が免疫組織化学（ＡＢＣ法）とレクチン組織化学（レクチン染色法）の手法を導入し、従来からの研究課題である牛のヨーネ病、豚のヘモフィルス・ニューモニアーエ感染症、豚のパストレラ感染症などの症例を用いて病理組織学的に研究を行っ

ている。さらに、電子顕微鏡の搬入に備えて、試料作成法の指導も順調に進んでいる。また、専門家が共同研究者として名を連ねた研究成果の学会発表も行っており、極めて順調なスタートを切った部門である。

(3) ウィルス感染症に関する研究

１９８５年～１９８８年の３年間にわたる安藤個別専門家派遣による協力時に、約５千万相当の単独機材供与により整備された研究室であり、アルゼンティン国の中では動物由来のウィルスに関する研究活動が最も活発な研究室である。また、今後各研究室において共通に使用する機材が供与され、それらを設置するための中央実験棟が完成するまでは、当研究室が共通機器センター的な役割を果たすことになるであろう。現在は、研究室で分離した馬ヘルペスウィルス、馬インフルエンザ、馬伝染性貧血ウィルス、豚のオーエスキー病ウィルスなどの蛋白、核酸の解析ならびに各ウィルス株間の比較研究を行い、研究成果を着実に挙げつつある。さらに、サービス業務として、馬インフルエンザ、馬動脈炎の診断、牛白血病、馬伝染性貧血の診断用抗原の販売を行っており、自助努力による研究費捻出に最も熱心な研究室である。４年次に開始された予定のサブテーマ「応用領域へのアプローチ目指した総合的研究活動」を実施する際には、病理学研究室と共に当研究室が中心的役割を担うものと期待される。今年度は、高橋短期専門家が当研究室での活動に参画し、また、供与済み機材の取り扱い方法について指導した。

(4) 嫌気性細菌症に関する研究

細菌学研究室は、獣医学部の中でも最も整備が遅れている研究室の一つである。アルゼンティン国の牧畜振興を図るためには、細菌性疾病の予定対策が重要課題であり、当研究室の活性化はプロジェクトの成否を左右するとも考えられる。新任教授が１９９０年５月か６月に決定される予定であり、また、１９９０年３月から４月には、長期専門家（佐藤平二氏）の派遣、現在東京大学で研修中の研修員（Gabriela I. Giacoboni）の帰国、平成元年度分の機材供与等が行われる予定であり、研究活動が順調に開始されるものと期待される。今年度は興水短期専門家が、カウンターパートに豚・鶏のマイコプラズマの分離・同定法を指導し野外から分離したが、研究室の現状から、研究のその後の進展がないのが残念である。

２－２ 専門家派遣

平成元年度の専門家派遣は下記の通り計画通り行われており、平成２年３月または４月には佐藤平二専門家（リーダー兼微生物学）が派遣される予定である。すでに派遣された専門家は、その能力を十二分に発揮してプロジェクトにおける研究活動に貢献しており、獣医学部を始めとするプロジェクト関係者から高い評価を得ている。

指導科目	氏　　名	派遣期間
① 長　期		
1）原虫学・免疫学	五十嵐　郁　雄（リーダー代行）	1. 6. 2～3. 6. 1
2）業務調整	野　口　優秀雄	1. 6. 2～3. 12. 1
3）病理組織学	板　垣　慎　一	1. 9. 1～2. 8. 31
4）微生物学	佐　藤　平　二（リーダー）	2. 3. ～4. 3.（予定）
② 短　期		
1）免疫細胞学	林　　良　博	1. 6. 16～1. 7. 15
2）ウィルス学	高　橋　英　司	1. 6. 16～1. 9. 15
3）病理組織学	土　井　邦　雄	1. 7. 21～1. 9. 15
4）実験動物学	興　水　　馨	1. 7. 21～1. 8. 26
5）原虫病学	鈴　木　直　義	1. 12. 2～1. 12. 24
6）機材据付	（未　定）	2. 3.（予定）

2－3　研修員受け入れ

研修員受け入れも下記の通り順調に行われている。すでに来日した研修員は研究に対して非常に意欲的であり、研修終了後プロジェクトにおける日本人専門家のカウンターパートとしての活躍が十分に期待できる。

研修科目	氏　　名	研修期間
1）病 理 学	Miguel A. Petruccelli	1. 4. 10～1. 12. 21
2）血清診断学	Gabriela I. Giacoboni	1. 5. 29～2. 3. 8
3）ウィルス学	Edgardo O. Nosetto	1. 4. 10～2. 3. 8
4）免疫病理	Maria C. Venturini	2. 3. 5～3. 3. 4
5）視　　察	Alberto R. Dibbern	2. 3.（予定）

2－4　機材供与

(1)　昭和６３年度分（約１千万円相当）

①　下記の機材が現地調達方式によって供与された。

1）落射型蛍光顕微鏡　　2）冷蔵庫　　3）デジタル式化学天秤

4）pHメーター　　5）恒温槽　　6）マウス飼育用ケージ・飼育棚

7）車両　　8）複写機　　9）ＦＡＸ機

②　いずれの機材も十分に利用・管理されている。今後獣医学部は、機材の保守管理要員の配置と管理台帳の作成を早急に行うことが協議において確認された。

(2) 平成元年度分（約８千万円相当）

① 下記の機材が供与される予定である。

1）透過型電子顕微鏡、試作作成装置他（約６千万円相当）

2）オートクレーブ、乾熱滅菌機、クリーンベンチ、生物顕微鏡、消耗品類他（約２千万円相当）

② 日本から供与され　機材の迅速な通関・引き取りについては、すでに獣医学部長他プロジェクト関係者が外務省国際協力局に協力を要請しており、調査団も各協議において関係者の理解と協力を要請した。機材は平成２年３月頃から到着する予定であり、本件が２国間政府の技術協力協定に従って問題なく処理されることを期待する。

２－５　カウンターパート及び要員の配置

各協力部門のカウンターパートと要員は、Ｒ／Ｄ及びＴＳＩに従ってすでに配置されているが、下記の点について報告する。

① アルゼンティン側のプロジェクトコーディネーター

日本の研修経験であるMarcelo Pecoradoがすでに任命され、日本人専門家（特に業務調整員）と連係してプロジェクトの運営管理のために活躍している。

② 日系秘書

日本語のできる秘書を大学側の負担により採用する予定になっていたが、１１月下旬にようやく適任者が見つかり採用された。プロジェクトの効率的な実施のために貢献することが期待されている。

③ 資機材の保守管理要員

すでに述べた通り、機材供与事業がすでに開始されているが、保守管理要員が配置されていない。特に平成２年３月には電子顕微鏡の到着が予定されているため、専任技師を早急に配置する必要がある。本件について、大学側関係者は十分にその必要性を認識して適任者を人選中であり、機材が到着し据付け専門家が派遣される予定の３月までには任命を行うことが合同委員会で確認された。

２－６　ローカルコスト負担

(1) アルゼンティン国の最近の経済事情

アルゼンティン国では、１９８９年の初めから経済状況が極端に悪化し、ハイパーインフレーションが進行し、メネム新大統領が就任した７月のインフレ率は１９６％に達した。同大統領は就任と同時に様々な経済再建策を打ち出したが、このうち国立大学の運営に影響を与えたものは、財政赤字の大きな原因となっている国営企業等公共部門への支出の大幅削減であった。つまり国立大学については、人件費は支給されるが、研究費等については削減の

対象され、研究活動の実施は極めて困難な状況にある。

(2) ラ・プラタ大学の現状

ラ・プラタ大学においては、１９８９年度の予算が１２月になっても正式に交付されず、獣医学部関係では暫定経費という名目で８３万アウストラルが執行されたが、９８％が人件費に使われ、研究活動等の実施は付属牧場の収益と各研究室のサービス業務で得た収益の２０％を充てて賄われている。ちなみにウィルス研究室では、診断及びワクチンや診断用抗原の販売で１９８９年の１０月と１１月にはそれぞれ１００万アウストラル程度の収益を上げ、その資金は動物、餌、液体窒素の購入や研究費等研究室の運営に使用したとのことである。

こうした状況の中で獣医学部長他関係者は、各研究室のサービス業務の拡充など自助努力によってプロジェクトの運営経費を捻出する方針をとるとともに、合同委員会において関係機関の協力を要請した。しかしながら、巨額の対外債務、国内における高いインフレ率と失業率等あまりにも多くの問題を抱えており、経済状況の早急な改善は困難である。したがって、今後、プロジェクトにおける研究活動の実施、供与機材の維持管理などにおいて支障が生じることが十分予想されるため、日本側のローカルコスト負担が要請される可能性が大きい。

２－７　建物及び施設

(1) 中央実験棟（微生物学研究棟）の整備

① 経緯と対応

プロジェクト開始にあたり、ラ・プラタ大学は日本側との合意に基づき、平成元年度供与予定の電子顕微鏡及び将来供与される予定の大型の共通使用機器を設置する予定の微生物学研究棟を改修するために、１９８８年度補正予算として約２０万ドルを計上し、設計も行って、１９８９年の２月から３月に着工する予定であったが、前述の通り、経済状況の悪化により予算は執行されず、改修工事の目途は全く立っていない。これについて獣医学部側は、応急措置として当学部の遺伝学研究室の二室を一時的に使用することを提案したが、諸事情を考慮し、当面は中央実験棟の改修工事予算獲得のための努力を継続することとした。しかしながら、予算措置は簡単になされるとは思われないため、期限を決めて状況を見定め、まず現地サイドで対応策を考えるべきである。

② 電子顕微鏡設置室の改修

平成２年３月に導入される予定の電子顕微鏡は、プロジェクトにおける最重要供与機材であり、また、専門家がすでに着任し、カウンターパートもすでに研修を終えて帰国した等の事情から、プロジェクトの円滑な実施のために、中央実験棟のうち電子顕微鏡設置室のみを早急に改修する必要があるため、アルゼンティン側からの要請に基づき、ＪＩＣＡ

の応急対策事業（3,487千円）の実施が決定された。大学側が用意した設計図については、すでに高橋及び林短期専門家が大学の設計者と検射済みあったため、そのまま使用された。工事は11月から開始され平成2年2月末に完了する予定である。なお、空調機器については、アルゼンティン側の負担によって設置することが協議において確認された。また、アルゼンティン側が当初要求していた改修のための予算が交付された場合には、これをプロジェクトの運用資金に充当することが合同委員会において確認された。

(2) 実験動物舎の建設

R／Dに基づいてＪＩＣＡのモデルインフラ整備事業によって実施される予定の実験動物舎の建設に関しては、興水及び林短期専門家の設計案に実験動物舎の責任者であるCecilia Carboneの意見も加味された設計原案に基づき大学側の建築設計技師が基本設計案を作成した（別添）。現在これに若干の修正を加えて詳細設計と工事費の見積りが行われており（2月末完了の予定）、平成2年度早々にアルゼンティン側の要請書として日本側に提出される予定である。

(3) その他施設の整備について

① 配　　電

今後供与される予定の機材を支障なく稼動させるためには、研究室等の施設に必要十分な電気容量を確保する必要があるため、獣医学部はラ・プラタ市当局と相談の上対処することが協議において確認された。また、停電時に備えて、自家発電機を設置する必要性も確認され、獣医学部よりＪＩＣＡの予算措置について検討要請があった。

② 給　　水

研究等のプロジェクト活動を円滑に実施するためには、質・量ともに十分な水を確保する必要があるため、獣医学部は、現在の大学内のタンクからの給水に加えて市から直接引き込む方式も検討中である。また、今後研究活動の活発化に伴い、必要とされる蒸留水の量も増えると予想されるため、製造装置の確保も検討する必要がある。

UNIVERSIDAD NACIONAL DE LA PLATA
FACULTAD DE CIENCIAS VETERINARIAS

TITLE OF THE PROYECT:

THE DESIGN AND ESTABLISHMENT OF AN ANIMAL FACILITY IN THE VETERINARY FACULTY OF LA PLATA

OBJETIVES

1- To develop an animal facility as a reference center for the areas of our country that use laboratory animals.

2- To produce defined animals by Genetic and Microbiological monitoring programs.

3- To establish a Microbiological and Genetical Monitoring Center for other breeders.

4- To improve the methods for animal care and management in the field of bioscientific research.

5- To create training programs for professionals and for technicians.

6- To promote the implementation of laws and regulations related to experimental animals.

THE BUILDING

The design will include two main properties:

1- Flexibility: the environmental conditions will allow us to convert easily the rooms for any of the small laboratory animals species, so we will be able to satisfy the different demands from year to year.

2- Posibility to grow easiliy in the future.

3- The building will be simple to mantain.

ADMINISTRATION OF THE UNIT

The unit will self-mantained by:

a) Selling the animals.

b) Establishing a genetic and microbiological monitoring service for other breeders.

The unit will start working with a small foundation stock of conventional rats and mice, and will grow with the demand. In the facility people will be trained in the management and care of / laboratory animals.

These conventional animals will be housed in very-high quality environments, similar to those described for SPF ones. This situation does allow the possibility of eventually converting the conventional unit into an SPF unit by replacing all animals with SPF foundation stock.

ANIMAL PRODUCTION ESTIMATION

- Mice: two rooms for mice working with:
  - 60% for breeding
  - 40 % for stock

480 cages: 300 cages for breeding
180 cages for stock

Obtaining average 5 litters every 45 days per cage we will produce: 1200 mice every month.

- Rats: one animal room working with:
  - 50% for breeding
  - 50%for stock

120 cages: 60 cages for breeding
60 cages for stock

Obtaining average 10 litters every 45 days per cage we will produce: 400 rats every month.

INVESTIGATION COST RELATED WITH THE YEAR PRODUCTION

Mice: 1200 per month 14.400 per year

NOTE: Costs investigation in relation with the food and bedding consumption adding 5% for equipment deterioration.

Mice:

- Food: 144 purses . . . . . U$S 1.152
- Bedding + 5% . . . . . U$S 1.200

U$S 2.352

Cost of a mouse: U$S 0,16

Rats: 400 per month 4.800 per year

- Food: 132 purses . . . . . U$S 1.056
- Bedding + 5% . . . . . U$S 600

U$S 1.656

Cost of a rat: U$S 0,34

DETAILS OF THE NAME AND PRICE OF EQUIPMENTS

- 700 stainless steel solid-bottom mouse cages with wire covers, all with drinking bottles in 16 movil racks . . . . . U$S 31.781

- 180 wire cages for rats with stainless steel trays and drinking bottle sistem in 8 movil metal racks . U$S 15.535,90

- 1 tunnel-tipe cage washer . . . . . U$S 5.000

- 1 double door autoclave . . . . . U$S 37.000

- 1 microcentrifuge
- 1 optical microscope
- 1 plastic sealer machine U$S 10.000
- 1 incubator stove
- 1 balance
- 1 domestic washer machine

- Air filtration sistem . . . . . U$S 4.697

- Others: Food (25 kg) . . . . . U$S 8

STAFF WHO WILL BE IN CHARGE OF THE ADMINISTRATION AND MANAGEMENT OF THE FACILITY

- 1 Director and Supervisor of Animal House
- 1 Professional for mice area
- 1 Professional for rat area
- 1 Professional for laboratory
- 1 Technician for mice area
- 1 Technician for rat area
- 2 Persons for ancillary services
- 1 Office staff

TEXT BOOKS THAT ARE OF INTERESTING

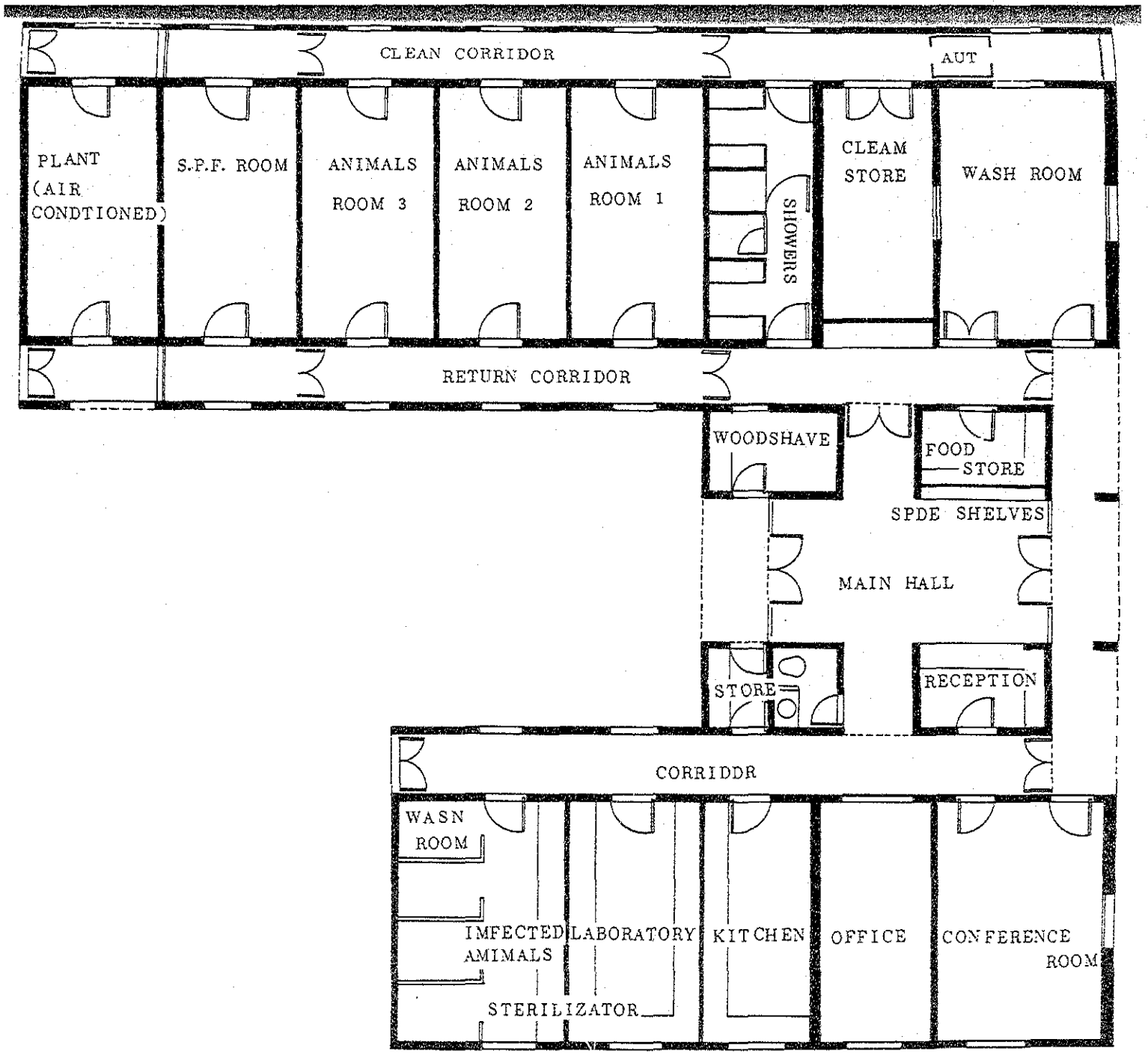
- The mouse in biomedical research, edited by Henry L. Foster, J. David Small and James G. Fox. Academic Press.

- ICLAS Manual for Genetic Monitoring of inbred mice; edited by T. Nomura, K. Esaki and T. Tomita. University of Tokyo Press, 1984.

- Manual for microbiological monitoring of Laboratory animals; Editors: Fujiwara - Ganaway. Public Health Service (NIH)

NOTE: We are interested in obtaining:

A videotape for training purposes developed with the Asian Regional Monitoring Center based on the ICLAS Monitoring Center System Program.


CLEAN CORRIDOR
AUT
PLANT (AIR CONDTIONED)
S.P.F. ROOM
ANIMALS ROOM 3
ANIMALS ROOM 2
ANIMALS ROOM 1
SHOWERS
CLEAM STORE
WASH ROOM
RETURN CORRIDOR
WOODSHAVE
FOOD STORE
SPDE SHELVES
MAIN HALL
STORE
RECEPTION
CORRIDDR
WASN ROOM
IMFECTED AMIMALS
LABORATORY
KITCHEN
OFFICE
CONFERENCE ROOM
STERILIZATOR
DTSPOSALS

3. 平成２年度の実行計画案

3. 平成２年度の実行計画案

調査団とプロジェクト関係者との協議を経て下記の実行計画案が策定され、合同委員会にて承認された。

なおＴＳＩに従い、初年次に開始された「形態学的基礎研究活動」に加えて、２年次には「実験動物を活用した形態と機能に関する基礎研究活動」が開始される予定である。また、３年次に開始される予定の「感染症の宿主病態の生理・生化学的研究活動」に関する研究プロポーザルは、平成２年６月末日までに日本側に提出されることが協議において確認された。

(1) ２年次から開始される研究小テーマ

ラ・プラタ大学獣医学部から提出されたプロポーザルのうち、下記の研究小テーマが採用された。

" Studies on modulation of genetic response, gene expression and gene manipulation in laboratory animals "

「実験動物における遺伝的応答の修飾、遺伝子発現と遺伝子操作に関する研究」

研究代表者 ： Fernando Dulout （獣医学部遺伝学研究室）

(2) 専門家派遣

指導科目	氏名	派遣期間
① 長期		
1）原虫学・免疫学	五十嵐 郁雄	1. 6. 2～3. 12. 1
2）業務調整	野口 優秀雄	1. 6. 2～3. 6. 1
3）病理組織学	板垣 慎一	1. 9. 1～2. 8. 31
4）微生物学	佐藤 平二（リーダー）	2. 3 ～4. 3(予定)
5）病理組織学	未定	2. 9

② 短期（優先順）

1）実験動物の心電図

2）真菌の分離・同定

3）病理学

4）生理・生化学

5）寄生虫学

なお上記分野に加えて、人選と予算措置が可能であれば、実験動物学とウィルス学についても専門家（短期または長期）を派遣してもらいたい旨要請があった。

(3) 研修員受入れ（優先順）

研修科目	候補者	研修期間	研修予定機関
1）遺伝子（生化学）	Maria C. Argerich	12カ月	東京大学
2）微生物学	Marisa A. Amor	12カ月	東京大学
3）病理学	Maria A. Quiroga	12カ月	東京大学
4）視察	Angel L. Plastino	2，3週間	
5）寄生虫学（補欠）	Cecilia L. Di Lorenzo	12カ月	帯広畜産大学

日本の教育制度と研究の現状を視察し、プロジェクト協力への理解を深める目的から、ラ・プラタ大学長の受入れが要請された。また、平成2年度の受入れ枠（早期通報分）は4名であるが、もう1名の追加受入れについて要望があった。

(4) 機材供与

下記分野の機材供与が要請される予定である（実行計画額7千万円）。

1）実験動物

2）微生物学

3）原虫学

4）病理学

5）ウィルス学

6）遺伝学

7）共通機器

(5) 国費留学生受入れ

① 平成2年度

Gustavo Oscar Zuccolilli （生理学）の東京大学への留学が内定した。

② 平成3年度

候補者リストを平成2年6月末日までに日本側に提出することが協議で確認された。

(6) モデルインフラ整備事業（実験動物舎の建設）

平成2年度早期にアルゼンティン側より正式要請書が提出され、JICA本部における事業承認、口上書交換、予算示達等の手続きを経て実施される予定である。なお、建設工事契約はJICAアルゼンティン事務所長と現地建設業者との間で締結し、施行監理はラ・プラタ大学側が行う予定である。なお、建設される実験動物舎は大学に帰属し、運営管理は獣医学部が行う。

4. プロジェクトの進捗状況に関する調査団所見

4. プロジェクトの進捗状況に関する調査団所見

(1) プロジェクトに対する姿勢及び取り組み方

今回の計画打ち合せ調査団との話合いを通して、プロジェクト関係者、関係機関（アルゼンティン国外務省国際協力局、文部省大学局、在アルゼンティン国日本大使館）は、本プロジェクトに対して極めて強い関心と期待を抱いていることが感じられた。特に大学局長は日本側の協力に感謝し、アルゼンティン国にとってシンボル的大学である「ラ」大学に対する援助は今後両国の交流にとって極めて良い前例となり、必ず将来良い影響を与えることになると述べられ、ＪＩＣＡプロジェクトの枠の拡大を期待していた。国際協力局長も、このプロジェクトに対する全面的協力を述べられ、「ラ」大学学長は、日本は世界歴史上、初めて武力によらずに経済力で世界の大国となり、この経済発展をもたらした最大の理由は、日本の教育制度にあると結論づけ、このプロジェクトを介して、いろいろ学びたいと述べられた。このようにプロジェクトに対するアルゼンティン側の姿勢は良いものと判断するが、経済危機の同国において、プロジェクト運営に関するアルゼンティン側のローカルコスト負担に唯一の懸念がある。

(2) わが国の協力状況

ＪＩＣＡ及びプロジェクト国内委員会が極めて有効に対応しているので、問題はなく順調である。

(3) 今後のプロジェクト協力対応の見通し

日本側の協力対応は何ら問題はない。しかし、アルゼンティン側に問題が生じる可能性がある。これは今後のアルゼンティンの政情に左右される要因によるもので、経済情勢がさらに悪化する最悪事態になれば、ＪＩＣＡのローカルコスト負担事業（応急対策費、プロジェクト基盤整備費、その他）などの活用を含む運営方法も考えておく必要があると考えられる。現時点の最重要課題はアルゼンティン側負担による中央実験棟の改修工事費の捻出方法と思われる。

5. 合同委員会の討議結果

5. 合同委員会の討議結果

プロジェクトの第一回合同委員会は、平成元年１２月１１日（月）ラ・プラタ大学学長室付属の会議室で開催され、R／Dに基づいて下記の事項について討議・確認が行なわれた（別添：議事録及び仮訳）。

Ⅰ．日本国政府によってとられた措置の検討

Ⅱ．アルゼンティン共和国政府によってとられた措置の検討

Ⅲ．プロジェクトの基本計画に基づく暫定実施計画の総合的進捗状況

Ⅳ．１９９０年度プロジェクト実行計画案

THE MINUTES OF THE FIRST JOINT COMITTEE OF
THE RESEARCH PROJECT AT THE FACULTY OF VETERINARY SCIENCE,
THE NATIONAL UNIVERSITY OF LA PLATA

The Japanese technical cooperation by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") for the Research Project at the Faculty of Veterinary Science, the National University of La Plata (hereinafter referred to as "the Project") started on the first of March, this year, with its duration of five years, in accordance with the provision of the Record of Discussions signed on December 15, 1988, between the Japanese Implementation Survey Team and the Authorities concerned of the Government of Argentine Republic (hereinafter referred to as "the R/D").

For the effective and successful implementation of the Project, JICA dispatched the Mutual Consultation Team headed by Dr. Takeshi Mikami (hereinafter referred to as "the Team") to Argentine Republic from December 5, 1989 to December 13, 1989.

During its stay in Argentine Republic, the Team, together with the Japanese long-term experts headed by Dr. Ikuo Igarashi, had a series of discussions with the authorities concerned of the Faculty of Veterinary Science, the National University of La Plata and participated in the First Joint Comittee of the Project.

The First Joint Comittee of the Project, with the participation of the Team, was held on December 11, 1989 in La Plata and had a result of discussions as per attatched hereto.

La Plata, December 11, 1989

Dr. Takeshi Mikami
Leader
Mutual Consultation Team, JICA

Dr. Angel Luis Plastino
President
National University of La Plata

Dr. Ikuo Igarashi
Team Leader
JICA

Dr. Alberto Ricardo Dibbern
Dean
Faculty of Veterinary Science
National University of La Plata

I MEASURES TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN (JAPANESE FISCAL YEAR 1989: April 1989/March 1990)

The following was reported and confirmed;

1. Dispatch of the Japanese experts:

(1) Long-term experts:

1) Leader, Parasitology: Dr. Ikuo Igarashi	June 1989/May 1991
2) Project Coodination: Mr. Yukio Noguchi	June 1989/Nov. 1991
3) Pathology: Dr. Shinichi Itagaki	Sept. 1989/August 1990
4) Microbiology: (to be realized)	March 1990/Feb. 1992

(2) Short-term experts:

1) Pathology: Dr. Yoshihiro Hayashi	1989.6.17/7.13
2) Virology: Dr. Eiji Takahashi	1989.6.17/9.13
3) Labolatory Animals: Dr. Kaoru Koshimizu	1989.7.22/8.24
4) Pathology: Dr. Kunio Doi	1989.7.22/9.13
5) Parasitology: Dr. Naoyoshi Suzuki	1989.12.3/12.22
6) Installation of the Electric Microscope: (to be realized)	1990.3/2 weeks

2. Argentine counterpart personnel training in Japan :

1) Pathology: Dr. Miguel A. Petruccelli	1989.4.10/12.21
2) Virology: Dr. Edgardo O. Nosetto	1989.4.10/1990.3.8
3) Microbiology: Dr. Gabriela I. Giacoboni	1989.5.30/1990.3.8
4) Parasitology: Dr. Maria C. Venturini	1990.3.5/1991.3.4
5) Observation: Dr. Alberto R. Dibbern	1990.3/1 month

3. Provision of the Equipment:

1) Equipment for Parasitology such as Microscope, Refrigerator, Balance, etc. and Micro-bus, Copy Machine, Faximile Machine were donated with the last year's budget.

¥10,000,000-Approx.

2) Electron microscope and other equipment are to be donated with the Japanese budget 1989.

¥80,000,000-Approx.

4. Repair of the electronic microscope room:

Due to the budgetary difficulty of the National University of La Plata and the arrival of the electronic microscope in March, 1990, JICA has beared the necessary cost for the repair of the electron microscope room in "Pabellon Nocard", upon the request of the University, under the condition that the University will apply the budget for the repair of the room to the local cost of the Project, once the budget is allocated by the Government.

According to the report of Shibuya-Higa S.R.L., the contractor of JICA for the repair, 18.22% of the repair work has been completed by December 1, 1989 and is to be totally completed by the end of Feburuary, 1990.

J.M. J.J.

II MEASURES TAKEN BY THE GOVERNMENT OF ARGENTINE REPUBLIC

The following was reported and confirmed;

1. Allocation of necessary budget:
   1) The Argentine side has budgetary difficulties in providing the materials necessary for the Project and also in repairing "Pabellon Nocard" where the common use equipment by the donation and the electron microscope will be installed, because the Argentine national budget 1989 has not yet been approved.
   As for the repair of the electron microscope room in "Pabellon Nocard", as mentioned in I 4., the University requested JICA to bear the necessary cost and promised to apply the budget for the repair of the room to the local cost of the Project once the budget is allocated by the Government.
   2) Land, buildings (except "Pabellon Nocard") and facilities have been very well provided.

2. Arrangement of necessary counterpart personnel:
   All the necessary Argentine staff has been duly arranged and as for the electric engineer responsible for the maintenance of the donated equipment, mainly of the electron microscope, is to be arranged by the arrival of the microscope.

3. Utilization of the equipment provided by the Government of Japan:
   The equipment donated is very well utilized and properly maintained.

III OVERALL PROGRESS OF THE TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION IN LINE WITH THE MASTER PLAN OF THE PROJECT

The following was reported and confirmed;

According to the annual program of the Tentative Schedule of Implementation, "Basic research activities on patho-morphological studies" have started this year and have been very well carried out with the following four research topics.

1. Research of anaerobic bacterial diseases:
   This topic will actually start to be carried out in March, 1990 with the arrival of a long-term microbiology expert, however, the techniques of the isolation and identification of Mycoplasma from chickens and pigs has been introduced by the short-term expert, Dr. Kaoru Koshimizu.

2. Research of toxoplasmosis:
   The serological survey was carried out in pigs.
   The preliminary results revealed that approximately 30% of pig population is infected with toxoplasma parasites and suggest the possibility of congential infection in pigs from the aborted fetus examination.

3. Research of viral diseases:
The seroepidemiological studies for the viral diseases in horse were realized and herpesvirus and influenzavirus were isolated.
Further, the antigens for diagnosis of equine anemia and bovine leukosis were made for commercial use.
Related to the export of horses, the diagnosis of equine arthritis was performed.
In addition, Dr. Eiji Takahashi, short-term expert, realized, besides his studies, the guidance for the better utilization of the equipment donated by JICA.

4. Pathological and histo-pathological studies of infectious diseases:
1) Immunohistochemical staining by ABC method, 2) Lectin histochemical staining and 3) the method to prepare the specimens for the electron microscope were introduced and pathological diagnosis and basic research work related to 1) and 2) above were realized.
Two short-term experts, Dr. Yoshihiro Hayashi and Dr. Kunio Doi participated in the above-mentioned work.

IV THE ANNUAL WORK PLAN 1990:

The following was proposed and agreed to be recommended to both the Japanese and Argentine government accordingly;

According to the Tentative Schedule of Implementation, in addition to the basic research activities on path-morphological studies that started to be carried out in the first year, "Basic research activities on morphological & physiological studies using labolatory animals" are to start from the second year of the Project.

1. Research topic to be carried out from the second year:
Among several topics proposed by the Faculty of Veterinary Science, the University of La Plata (hereinafter referred to as "the Faculty" and "the University" respectively), "Studies on modulation of genetic response, gene expression and gene manipulation in labolatory animals" was chosen as a research topic under the "Basic research activities on morphological & physiological studies using labolatory animals".

2. Dispatch of the Japanese experts:
(1) Long-term experts:

1) Parasitology: Dr. Ikuo Igarashi	June 1989/May 1991
2) Project Coodination: Mr. Yukio Noguchi	June 1989/Nov. 1991
3) Pathology: Dr. Shinichi Itagaki	*Sept. 1989/August 1990
4) Microbiology: (to be realized)	March 1990/Feb. 1992
5) Pathology: (to be realized)	*Sept. 1990/1 year

(2) Short-term experts:
1) Electrocardiogram of Labolatory Animals: one expert
2) Culture and Identification of Mycosis: one expert
3) Pathology: one expert
4) Physiology and Biochemistry: one expert
5) Parasitology: one expert

3. Argentine counterpart personnel training in Japan (in the order of priorities)
   1) Genetics: one person
   2) Microbiology: one person
   3) Pathology: one person
   4) Observation: one person
   5) Parasitology: one person

4. Provision of the Equipment:
   The equipment for the following areas is to be donated.
   1) Labolatory animals,
   2) Microbiology,
   3) Parasitology,
   4) Pathology,
   5) Virology,
   6) Genetics
   and 7) Common use equipment

5. Ph.D. Scholarship:
   Related to the Project, Dr. Gustavo Oscar Zuccolilli applied for the Japanese Ph.D. scholarship for 1990 in physiology at the University of Tokyo.

6. Labolatory Animal Facility:
   In relation to the labolatory animal facility referred to in the R/D, the basic plan of the facility developed by the University with the colaboration of Dr. Kaoru Koshimizu was approved and the detailed design was agreed to be developed by the University in consultation with JICA, in order that JICA will be able to construct the facility during the Japanese fiscal year 1990.

7. Budgetary difficulties:
   Maximum efforts to overcome the budgetary difficulties were agreed to be made by the Argentine side for the smooth and effective implementation of the Project.

THE LIST OF THE PARTICIPANTS OF THE FIRST JOINT COMITTEE OF THE RESEARCH PROJECT AT THE FACULTY OF VETERINARY SCIENCE, THE NATIONAL UNIVERSITY OF LA PLATA

THE JAPANESE SIDE:

Dr. Takeshi Mikami	:Leader, Mutual Consultation Team, JICA
Mr. Yuuya Ogawa	:Member (Investigation Program), Mutual Consultation Team, JICA
Mr. Kazumi Kobayashi	:Coordinator, Mutual Consultation Team, JICA
Dr. Naoyoshi Suzuki	:Short -term expert (Parasitology), JICA
Dr. Ikuo Igarashi	:Long -term expert (Team Leader, Parasitology), JICA
Mr. Yukio Noguchi	:Long -term expert (Coordinator), JICA
Dr. Shinichi Itagaki	:Long -term expert (Pathology), JICA
Mr. Takeshi Mochizuki	:First Secretary, Embassy of Japan
Mr. Masashi Kamimura	:Resident Representative, Argentine Office of JICA
Mr. Masashi Aoki	:Head, 2nd. Div., Argentine Office of JICA
Mr. Toshiyuki Ezuka	:2nd. Div., Argentine Office of JICA
Mr. Victor Kumabe	:2nd. Div., Argentine Office of JICA

THE ARGENTINE SIDE:

Dr. Angel Luis Plastino	:Presidente, UNLP (La Universidad Nacional de La Plata)
Prof. Jorge Pouchou	:Director, Gabinete de Asesores de la Presidencia , UNLP
Dr. Horacio Garcia Valenti	:Asesor del Presidente, UNLP
Dr. Alberto Ricardo Dibbern	:Decano, Fac. Cs. Vet. (Facultad de Ciencias Veterinarias), UNLP
Dr. Mario Pons	:Vice Decano, Fac. Cs. Vet., UNLP
Dr. Rogelio Bruniard	:Secretario de Asuntos Academicos, Fac. Cs. Vet., UNLP
Dr. Marcelo Pecoraro	:Coordinador, Fac. Cs. Vet., UNLP
Dra. Lucila Venturini	:Catedra de Parasitologia, Fac. Cs. Vet., UNLP
Dr. Carlos Perfumo	:Catedra de Patologia, Fac. Cs. Vet., UNLP
Dr. Eduardo Gimeno	:Catedra de Patologia, Fac. Cs. Vet., UNLP
Dra. Cecilia Carbone	:Catedra de Animales de Laboratorio, Fac. Cs. Vet., UNLP
Dra. Maria Elisa Echeverrigaray	:Catedra de Virologia,Fac. Cs. Vet., UNLP
Ing. Fernando Dulout	:Catedra de Genetica
Sr. Jose Luis de Imaz	:Director, Asuntos Universitarios de la Nacion, Ministerio de Educacion de la Nacion
Sr. Pedro Colombi	:Jefe de Gabinete, Direccion General de Cooperacion Internacional, Ministerio de Relaciones Exteriores y Culto

ラ・プラタ大学獣医学部研究計画

第１回　合同委員会議事録（仮訳）

ラ・プラタ大学獣医学部研究計画（以下「プロジェクト」と言う）に対する国際協力事業団（以下「ＪＩＣＡ」と言う）の技術協力は、１９８８年１２月１５日に日本側実施協議調査団とアルゼンティン共和国関係当局との間で署名された討議々事録（以下「Ｒ／Ｄ」と言う）に基づき、本年３月１日から５年間の協力期間をもって開始された。

ＪＩＣＡは、プロジェクトの効率的・効果的実施のために、１９８９年１２月５日から１２月１３日まで東来大学農学部 見上　彪 教授を団長とする計画打合せ調査団（以下「調査団」と言う）をアルゼンティン共和国に派遣した。

アルゼンティン共和国滞在中調査団は、五十嵐郁男氏をリーダーとする派遣専門家チームとともにラ・プラタ大学獣医学部関係者と協議を行なうとともに、プロジェクトの第１回合同委員会に出席した。

プロジェクトの第１回合同委員会は、調査団の出席の下に１９８９年１２月１１日にラ・プラタ市において開催され、別添の討議がなされた。

ラ・プラタ市　１９８９年１２月１１日

署　名	署　名
見　上　　彪	アンヘル・ルイス・プラスチーノ
ＪＩＣＡ計画打合せ調査団々長	ラ・プラタ大学学長
署　名	署　名
五十嵐　郁　男	アルベルト・リカルド・ディベルン
ＪＩＣＡ派遣専門家リーダー	ラ・プラタ大学獣医学部長

I　日本国政府によってとられた措置の検討

下記の事項について報告・確認された。

1.　日本人専門家の派遣

(1)　長期専門家

1）原虫学・免疫学	五十嵐郁男（リーダー代行）	1989. 6～1991. 5
2）業務調整	野口優秀雄	1989. 6～1991. 11
3）病理組織学	板垣慎一	1989. 9～1990. 8
4）微生物学	未定	1990. 3～1992. 2（予定）

(2)　短期専門家

1）免疫細胞学	林良博	1989. 6.17～ 7.13
2）ウィルス学	高橋英司	1989. 6.17～ 9.15
3）実験動物学	興水馨	1989. 7.22～ 8.24
4）病理組織学	土井郁雄	1989. 7.22～ 9.13
5）原虫病学	鈴木直義	1989.12. 3～12.22
6）電子顕微鏡据付	未定	1990.3. 約3週間（予定）

2.　アルゼンティン側カウンターパートの本邦研修

1）病理学	ミゲール・A・ペトルセージ	1989. 4. 10～ 12. 21
2）ウィルス学	エドガルド・O・ノセット	1989. 4. 10～1990. 3. 8
3）微生物学	ガブリエラ・I・ヒアコボーニ	1989. 5. 30～1990. 3. 8
4）原虫病学	マリア・C・ベントゥリーニ	1990. 3. 5～1991. 3. 4
5）視察	アルベルト・R・ディベルン	1990. 3 約1カ月間（予定）

3.　機材供与

1）　1988年度予算（約10,000,000円）

原虫病学……蛍光顕微鏡、冷蔵庫、電子天秤　他

マイクロバス、コピー機……ファックス機器　他

2）　1989年度予算（約80,000,000円）

電子顕微鏡　他

4.　電子顕微鏡室の改修

ラ・プラタ大学の財政難の中で電子顕微鏡の到着が1990年3月に予定されているため、ラ・プラタ大学側の要請に基づき、Nocard 舎の電子顕微鏡室改修のための必要費用をJICAが負担した。なお、建設予算が政府によって交付された場合、大学はこれをプロジェクトの運営資金に充てる。

JICAとの契約業者である（有）Shibuya－Higa の報告によれば、1989年12月1日現在の工事の進捗状況は18.22％であり、1990年2月末までには完工する予定で

ある。

Ⅱ　アルゼンティン共和国政府によってとられた措置の検討

下記の事項について報告・確認された。

1.　必要な予算措置

1）アルゼンティン側は、１９８９年度予算が未だ承認されないため、プロジェクトにおける必要資材の調達と、共通使用供与機材と電子顕微鏡が据付けられる予定のNocard 舎の改修において財政的困難をきたしている。

Nocard 舎の電子顕微鏡室の改修については、すでにⅠ．4.　で述べられているが、大学はＪＩＣＡに必要費用の負担を要請するとともに、改修予算が政府によって交付された場合には、これをプロジェクトの運営資金に充てることを約束した。

2）土地、建物（Nocard 舎を除く）及び施設については十分準備された。

2.　カウンターパート他要員の配置

アルゼンティン側スタッフはすべて正式に配置された。供与機材のうち主に電子顕微鏡のメンテナンスのための電気技師は、電子顕微鏡が到着するまでに配置される予定である。

3.　日本国政府によって供与された機材の利用

供与機材は十分に利用されよく管理されている。

Ⅲ　プロジェクトの基本計画に基づく暫定実施計画の総合的進捗状況

下記の事項について報告・確認された

暫定実施計画の年次計画に従い、今年は「形態学的基礎研究活動」が開始され、下記の４つの研究小テーマについて研究活動が行なわれた。

1.　嫌気性細菌症に関する研究

この小テーマに関する実質的な研究活動は、１９９０年３月に派遣される微生物分野の長期専門家の到着により開始される予定である。しかしながら、短期専門家興水馨氏によって豚及び鶏からのマイコプラズマの分離・同定法について指導が行なわれた。

2.　トキソプラズマ症に関する研究

豚を利用した血清学的研究が行なわれた。予備試験の結果によれば、豚の約３０％がトキソプラズマ原虫に感染しており、また、流産胎児からの試験によって先天的感染の可能性も示唆された。

3.　ウィルス感染症に関する研究

馬における流行性ウィルス感染症に関する血清学的研究が行なわれ、ヘルペスウィルスとインフルエンザウィルスが分離された。

また、馬の伝染性貧血症と牛の白血病の診断のための抗原が商業目的のために製造された。

馬の輸出と関連して、馬の関節炎の診断が行なわれた。

さらに、短期専門家高橋英司氏によって、研究指導の他に、ＪＩＣＡによる供与機材の有効活用についても指導がなされた。

4. 感染症の病理・病理組織学的研究

1）ＡＢＣ法による免疫組織化学、2）レクチン染色法による免疫組織化学、3）電子顕微鏡試料の作成法について指導がなされ、1）と2）に関連した病理学的診断と基礎的研究活動が実施された。

上記活動には林　良博及び土井郁雄の２名の短期専門家が参加した。

Ⅳ　１９９０年度の実行計画

下記計画について提案され、日本及びアルゼンティン両国政府に勧告することが同意された。

暫定実施計画に従い、初年次に開始された「形態学的基礎研究活動」に加えて、２年次には「実験動物を活用した形態と機能に関する基礎研究活動」が開始される予定である。

1. ２年次から開始される研究小テーマ

ラ・プラタ大学獣医学部から提出のあったいくつかの研究テーマのうち、「実験動物を活用した形態と機能に関する基礎研究活動」の研究小テーマとして"Studies on modulation of genetic response, gene expression and gene manipulation in laboratory animals"が採択された。

2. 日本人専門家の派遣

(1) 長期専門家

1）原虫学・免疫学	五十嵐　郁　男	１９８９．６～１９９１．５
2）業務調整	野　口　優秀雄	１９８９．６～１９９１．１１
3）病理組織学	板　垣　慎　一	１９８９．９～１９９０．８
4）微生物学	未　　定	１９９０．３～１９９２．２
5）病理組織学	未　　定	１９９０　（１年間）

(2) 短期専門家

1）実験動物の心電図	１　名
2）真菌の培養と同定	〃
3）病 理 学	〃
4）生理・生化学	〃
5）原 虫 学	〃

3. アルゼンティン側カウンターポートの本邦研修（優先順）

1）遺 伝 学	１　名
2）微生物学	〃

3）病 理 学　　1　名

4）視　　察　　〃

5）原 虫 学　　〃

4. 機材供与

下記分野の機材供与が要請される予定である。

1）実験動物

2）微生物学

3）原 虫 学

4）病 理 学

5）ウィルス学

6）遺 伝 学

7）各分野共通機材

5. 国費留学生受入れ（Ph.D.）

プロジェクトに関連して、グスターボ・オスカル・スコリージが東京大学における生理学分野の研究のため、１９９０年度の国費留学（Ph.D.）を申請した。

6. 実験動物舎

R／Dに記載された実験動物舎に関連し、興水馨専門家の協力によって大学が行なった施設の基本設計は承認され、ＪＩＣＡが１９９０年に施設建設を行なうために、大学がJICAと相談の上、詳細設計を行なう。

7. 財政問題

プロジェクトの効率的・効果的な実施のために、アルゼンティン側は財政難克服のために最大限の努力をする。

JICA